

島根大学 環境・SDGs報告書

Shimane University Environmental & SDGs Report

2026



環境・SDGs 報告書2026 CONTENTS

01 学長からのメッセージ	1	03 本報告書の対象範囲と大学概要	15
02 2025年度の取組	2	① 本報告書の対象範囲	
① 環境改善・SDGsに資する豊かな人材育成		② 大学概要	
② 環境・SDGs研究成果の普及推進		③ 島根大学環境マネジメントシステム（EMS）体制図	
③ 快適な学内環境の構築		04 島根大学の環境への配慮・SDGsに関する考え方や仕組み ...	18
④ 省エネルギー等による継続的な環境改善		① 島根大学憲章	
⑤ 島根大学におけるSDGsへの組織的取組		② 島根大学環境方針	
⑥ グリーン購入の促進		③ 島根大学SDGs行動指針	
⑦ 教育・研究活動に関するインプット・アウトプット		④ 環境マネジメントシステム(EMS)及びSDGsによるこれまでの主な取組	
		⑤ 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し	

本報告書と環境報告ガイドライン（2018年版）との対照表

この環境報告書は、環境省が発行した「環境報告ガイドライン（2018年版）」に基づいて作成しています。

ガイ ド ラ イ ン の 項 目		本報告書の 該当ページ数
環境報告の基本的要件		
1. 環境報告書の基本的要件	(1) 報告対象組織	15
	(2) 報告対象期間	15
	(3) 基準・ガイドライン等	目次
	(4) 環境報告の全体像	目次
2. 主な実績評価指標の推移	主な実績評価指標の推移	-
環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	(1) 事業者のガバナンス体制	17
	(2) 重要な環境課題の管理責任者	17
	(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び業務執行組織の役割	-
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	(1) ステークホルダーへの対応方針	-
	(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	2～10
4. リスクマネジメント	(1) リスクの特定、評価及び対応方法	-
	(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け	-
5. ビジネスモデル	事業者のビジネスモデル	18、19
6. バリューチェーンマネジメント	(1) バリューチェーンの概要	-
	(2) グリーン調達の方針、目標・実績	11
	(3) 環境配慮製品・サービスの状況	11
7. 長期ビジョン	(1) 長期ビジョン	19
	(2) 長期ビジョンの設定期間	19
	(3) その期間を選択した理由	19
8. 戦略	持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	8～10
9. 重要な環境課題の特定方法	(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順（実施手順）	21
	(2) 特定した重要な環境課題のリスト（判断結果）	21
	(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由（判断基準）	21
	(4) 重要な課題のパウダリ（事業活動の範囲）	21
10. 事業者の重要な環境課題	(1) 取組方針・行動計画	21
	(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	12～14
	(3) 実績評価の算定方法	12～14
	(4) 実績評価指標の集計範囲	12～14
	(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	-
	(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告	-



島根大学は大学憲章において、「自然と共生する豊かな社会の発展に努める」とともに「環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える」と謳い、教職員、学生が協同して環境改善に努めています。

また、2019年には島根大学SDGs（持続可能な開発目標）行動指針を掲げ、全学としてSDGsの達成に向けて活動するとともに、地域と強く連携し、学生のSDGs意識を高める教育に取り組んでいます。

その取組は、島根大学SDGs行動指針を掲げる前から始めており、現在は、環境マネジメントシステム（EMS）をSDGs達成のための

1つの取組と位置付けて活動しています。

具体的には、ISO14001の認証取得を全学の基本方針とした後、2008年までに附属病院を含む全てのキャンパスにおいてISO14001の認証を取得しました。さらには2013年度から松江キャンパスでは認証による取組から自主的なEMS活動に切り替え、「松江キャンパスEMS改善委員会」を評価組織として設置し、各部署が中心となってPDCAサイクルによる環境改善を図るなど、新たなステージにおける活動を実践しています。出雲キャンパスでは、ISO認証の外部審査項目をクリアする以上の柔軟な体制を構築したことに伴い、2023年8月にISO認証を終了し、「出雲キャンパスEMS委員会」を評価組織としました。

その後、2024年にSDGs推進会議を立ち上げ、これまで各理事等により進めてきたSDGsに関する個別の取組を、より一層推進させるための体制を整えるとともに、「人も大学もサステナブルキャンパス」等の組織的な方針を定めました。また、学生や教職員がSDGs達成に向けた活動を島根大学が公認する制度として「SDGsユニット」を整備しました。2025年度までの活動を踏まえ、島根大学環境報告書の内容がすでにSDGsに触れていることから、2026年度に作成する環境報告書の名称を「島根大学環境・SDGs報告書」に変更することとしました。

本学は、附属病院をはじめ多くの実験系研究室をもつ環境負荷が大きい事業体ですので、環境改善への取組は本学の大きな社会的責任です。

島根大学は、EMSをSDGsの17のゴールと関係付け、2050カーボンニュートラルの実現等に向けて、SDGsに資する研究による社会への還元やSDGsへの意識を強く持った学生の育成により、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

「島根大学環境・SDGs報告書2026」をご高覧頂きまして、お気づきの点等ございましたらご指摘・ご指導いただければ幸いです。

島根大学長 大谷 浩

02 2025年度の取組

I 環境改善・SDGsに資する豊かな人材育成 医学部における取組



2025年度の出雲キャンパスにおける環境教育では、医学部の特性を活かし、環境と健康をテーマにした授業の充実を図りました。アンケート調査を通じて全学年での実施状況を把握したことで、効率的な教育体制の構築に着手しています。学生EMS委員による自主的な活動も継続されましたが、キャンパス間連携や特定の清掃活動に課題を残したため、次年度は出雲キャンパス独自の活動活性化に注力し、学生の環境倫理観と実践的態度をより一層高めていく方針です。



新入生オリエンテーション時の説明

総理工学部における取組



2024年度に続き、2025年度も学生に向けたEMS基本教育を実施しました。また、それぞれの専門性に合わせ、正課の授業における環境教育を実施しました。2026年度も継続してEMS基本教育と環境教育を実施していきたいと考えます。

第2回目 まぜるな危険

島根大学の廃液の分別について

Separation of waste waters

タンク番号 ①シアン化合物、②硫化物

無機廃液成分 指定容器 貯留時、搬出時の注意事項

1. シアン化合物を含む廃液
2. 硫化物を含む廃液

NaOHまたはKOHでpHを12以上にして貯留する

なぜpHを12以上にするのか？
pHによって存在形態・存在割合が変わる
→形態によって、毒性に違いがある

①シアン化合物

青酸ガス(HCN) 特異な微臭(アーモンド臭)

猛毒で、ガス吸入のほか皮膚からも吸収される。急性中毒では頭痛・めまい・耳なり・嘔吐などを示し、ひどければ意識消失・死亡する。慢性中毒では、頭痛・脱力感などの症状を示す。

濃度(ppm)	作用
18 - 36	数時間後に軽い症状
45 - 54	0.5-1時間は耐えられる
110 - 125	0.5-1時間で生命危険または致死
270	直ちに致死

Cyanide

毒性 $HCN \gg CN^-$

HCN の濃度を限りなくゼロにしたい

pHを12以上にする

①シアン化合物のタンクに貯留するもの
→酸性条件下でHCNガスが発生するもの

硫化物を含む廃液の分別について

Separation of waste waters

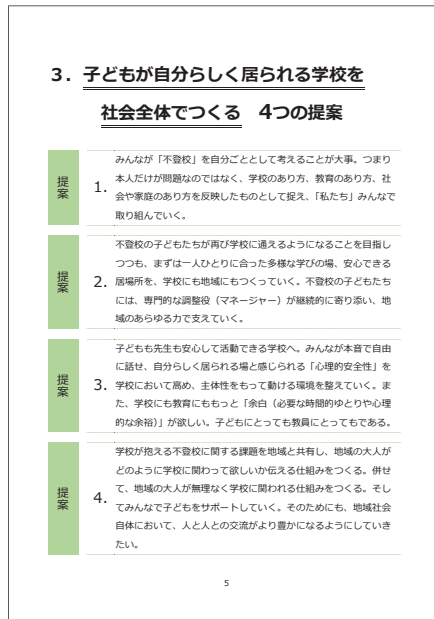
2 環境・SDGs研究成果の普及推進

法文学部における取組

行政学ゼミでは、「いいふうどプロジェクト」と題して、2021年度から自然に優しい農法での野菜づくりを行っており、2025年度も継続してゼミのSNS等を活用し、活動の様子を発信しました。

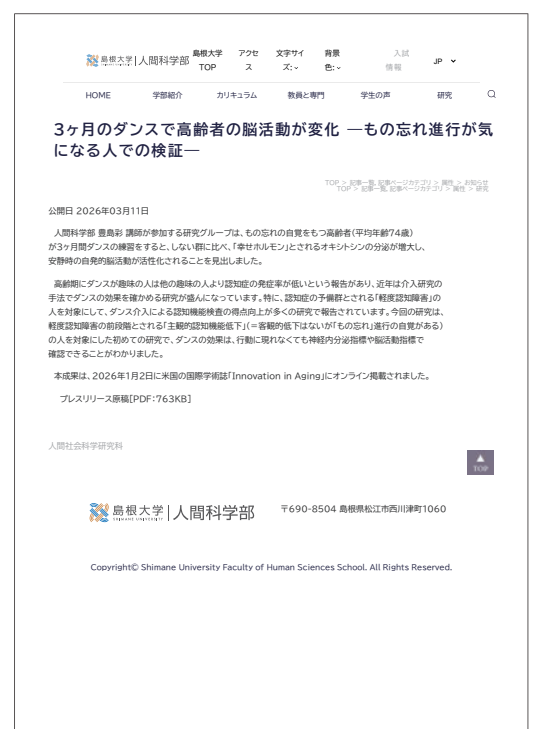
また、2025年8月5日のオープンキャンパス及び2025年10月12日の大学祭で、行政学ゼミの活動報告を行いました。さらに、行政学ゼミでは、「自分ごと化会議in松江」というプロジェクトにも関わっており、第4期は「松江の学校教育」をテーマとし、全5回の協議会を終え、「提案書」を作成しました（資料1）。

さらに、出雲市のフードバンク（しまね子ども支援プロジェクト）の取り組みに毎熊浩一教授が顧問を務める「学生FBI」も参加し、SNSを通じて活動の様子を発信しました。



人間科学部における取組

学部ホームページを通じた研究成果の発信（3ヶ月のダンスで高齢者の脳活動が変化—もの忘れ進行が気になる人での検証—）や、地域の知的障害のある人達が参加するオープンカレッジの取り組みを通じて、地域と協働して環境改善に取り組むことが出来ました。2026年度も引き続き、地域と協働しての環境改善を行っていきます。





生物資源科学部における取組

1. 「みのりの小道」大学開放事業の継続実施（全4回）

生物資源科学部の周辺緑地を活用した「みのりの小道」プロジェクトを、市民参加型の大学開放事業として実施しました。

2. 本庄農場における農場開放の推進

本庄農場を会場とした公開講座や農場開放事業を展開し、多くの市民が来学しました。参加者は実際の農作業や見学を通じ、大学の最新の研究成果に直接触れる機会を得ました。

3. 産学官連携による地域農業への技術支援

JAしまねや地域の農業経営者と共同で、「山陰地域の原材料によるペレット堆肥を用いた有機サツマイモ栽培」の研究・開発を推進しました。地域資源の循環と持続可能な農業モデルの構築に寄与しています。

4. 交流を通じた教育研究成果の社会還元

一連の活動を通じて、単なる農作業の体験に留まらず、大学の教育・研究活動を地域社会へ広く公開・還元しました。特に「みのりの小道」では、市民との継続的な交流を実現しました。

『生物資源科学部EMSニュース 2025 年 12 月号』

◎ 山陰地域の原材料によるペレット堆肥で有機サツマイモ栽培

島根大学と島根農業協同組合(JAしまね)は2023年2月に包括的連携協定を締結しました。本協定には農業振興、共同研究等の推進、教育及び人材育成、地域社会への貢献が含まれています。生物資源科学部では、農業振興として山陰地域から発生した畜産廃棄物から製造したペレット堆肥を使用し、「みどり戦略※」に対応できるイネ、ネギ、サツマイモの有機栽培に関する共同研究に取り組んできました。

このうち、足立文彦助教・門脇正行准教授が担当するサツマイモ栽培では、標高720mの冷涼な気象条件(夏期は北海道南部に相当)にある奥出雲町三井野で、ペレット堆肥※を使用した場合の収量と品質を評価しています。ペレット堆肥の原材料となる山陰地域から排出される牛ふんや鶏糞などが適切な配合となるように松本真悟教授が成分分析と助言を行い、JAしまねによりペレット堆肥の試作と改良が行われてきました。本共同研究では低温条件下では有機質肥料の分解が遅れてサツマイモの収量が低下する問題を解決するために、有機由来のカリウム成分を強化することで収量を向上させる改善を行いました。その結果、このペレット堆肥を利用したサツマイモの収量は化成肥料栽培の収量に匹敵し、食味品質は最も高くなりました。

従来、作業性が悪かった畜産廃棄物を効率的に散布することで化学肥料の使用量が低減できるとともに、成分強化による作物への肥効改善により、食料生産と持続性が両立できるようになりました。さらに、本学のSDGs活動の一部として地域資源の循環型活用システムの構築に貢献することが期待されます。なお、本件は関係企業と島根大学とで知財の共同出願を計画中です。



散布作業性を高めたペレット堆肥



高冷地でも慣行栽培と同等のサツマイモの塊根収量と高糖度を示した加里成分の強化

【上記に関連する情報につきましては、以下のURLよりご確認ください】

○JAしまね豊南地区本部「しまねびより」2025年6月号 営農News03

<https://ja-shimane.jp/img/tiku/unnan/koho/2025-06unnan.pdf>

○島根県農業協同組合と包括的協定締結を締結

<https://www.shimane-u.ac.jp/docs/2023030900032/>

※「みどり戦略」とは、農林水産省が2021年に策定した「みどりの食料システム戦略」の略称です。この戦略は、環境負荷を低減しつつ、食料生産と持続可能性の両立を目指す政策です。気候変動などの課題に対応するため、2050年までに「CO2排出量実質ゼロ」「化学農業・化学肥料の使用量削減」「有機農業の拡大」などの目標を掲げています。

※ペレット堆肥とは、牛ふんや鶏ふんなどの地域から排出される有機質資材に、植物栄養成分比率が適切になるように各種の有機質を混ぜ合わせ、JAしまね安来地区本部のペレット加工機で成形したものです。堆肥を圃場へ散布する際にはマニエスプレッダーなどの大型機械が必要になることが一般的ですが、ペレット化することで、手播きや動力散布機、ブロードキャストなどの簡易な散布方法が利用可能になります。これにより、中山間地の狭い圃場でも堆肥の利用が可能になるという利点があります。

研究・地方創生部における取組

世界の持続性社会の実現に貢献する新エネルギー創成材料や低消費電力デバイス開発の研究進捗状況を世界的な国際学会で発表するとともに、国際展示会で試作品展示を行うなど国内外に広く紹介しました。また、地域住民や小中高生に先端研究を含む理系の魅力をわかりやすく紹介した「NEXTAフォーラム」、「しまね大交流会」が新聞に掲載されたほか、研究成果が国内外学会で表彰されるなど、島根大学の社会貢献の取組みが広く認知されました。

SDGs17の目標に紐づく研究成果を社会に広く発信する取組みの一環として、「技術コミュニティラボ」や「汽水域合同研究発表会」などを主催し、産学官連携に基づくイノベーション創出に向けた取組みと一般市民に向けた情報発信を行いました。引き続き積極的に情報提供を行っていきます。



3 快適な学内環境の構築



①教育学部における取組

2025年度は定期的な学部棟内外の巡視を行い、安全で快適な学習環境の保持に努めました。特に学生の安全に関わる箇所（銀杏の木2本、実験室の庇）の改修ができました。2026年度も危険箇所の修理を順次行っていきます。また快適な教室環境を維持するために、ポスターによる「ごみの放置禁止」「節電」の意識を学生の中に高めていきます。



掲示したポスター

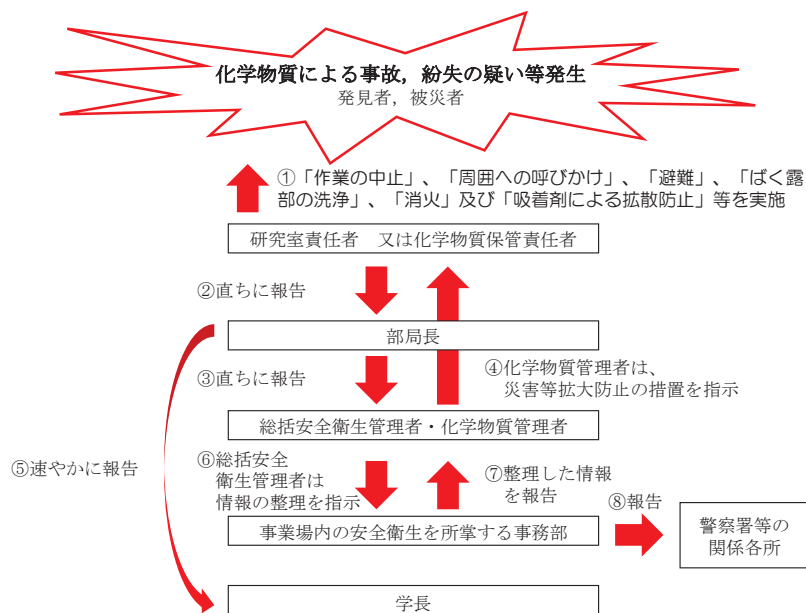
②医学部における取組 —緊急事態テストの実施—



特定化学物質を共同施設の特化物取扱室で使用する現状では、第三者による不用意な取扱いによって周囲への暴露、漏洩等の事故につながる可能性があります。2025年度のテストでは、管理不明試薬への適切な対応を行いその手順を確認、周知することで、第三者へのリスクや環境への影響を最小限に抑えることができると考えます。



緊急事態訓練の状況



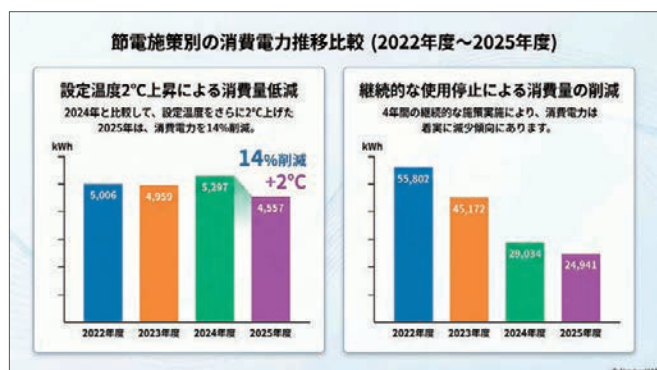
島根大学化学物質管理・取扱いマニュアルにおける異常時の措置フロー

④ 省エネルギー等による継続的な環境改善

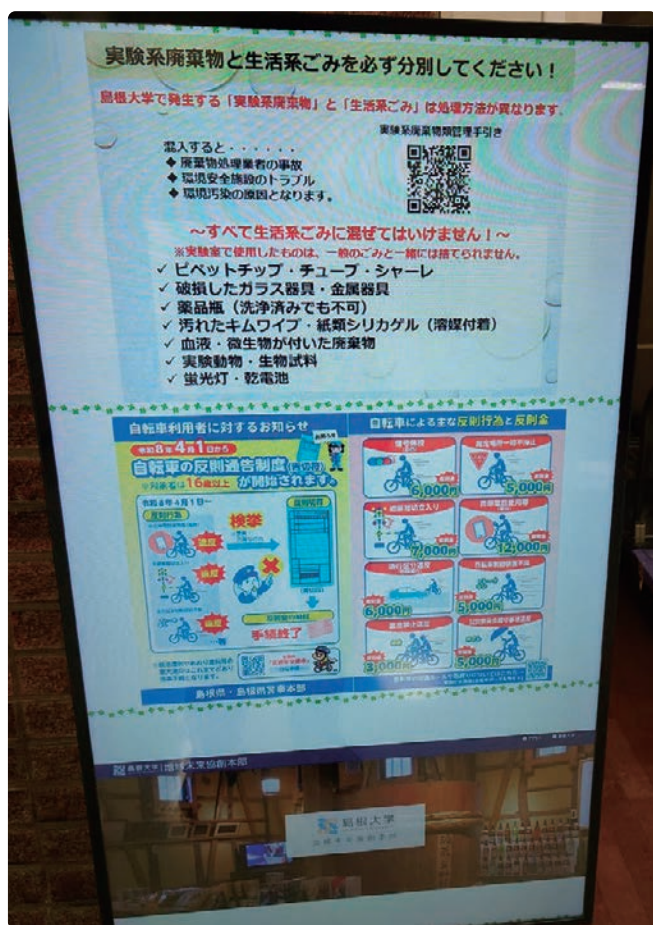


① 生物資源科学部学部における取組

生物資源科学部では、2号館において、一部の低温室の設定温度を2℃引き上げ、一部の使用停止を継続する運用改善を行いました。2026年2月に「EMSニュース（英文版）」を発行し、ゴミの分別や実験系廃棄物の取り扱いを留学生へ周知しました。また、2号館入口のデジタルサイネージを活用し、視覚的な啓発を行う運用改善を実施しました。その結果、低温室の運用改善により、対象室では2024年比で14%の電気消費量削減を達成しました。英文ニュースの発行により、英語話者への情報発信を初めて実現できました。年間の電気消費量は直近3年間で同程度で安定する状況を維持できました。



節電施策別の消費電力推移比較（2℃設定温度増加した場合）



生物資源科学部デジタルサイネージによる廃棄物についての周知

『生物資源科学部EMSニュース 2026年2月号』

◎ 卒業・新入学時期の居から温去時に正しい廃棄物の捨て方

卒業論文の取りまとめが終わって気がついてみれば2月になっていました。2・3月は学生のみならず、アパートや大学の研究室から退去する時期になるかと思えます。毎年、引っ越しにより家庭ゴミや大型ゴミが学内に持ち込まれたり、誤ったゴミの捨て方がされることが多い時期となりますので、松江市と大学の廃棄物の取り扱いについて英文でまとめました。正しい捨て方により鳥根大学のゴミの減量化にご協力のほどよろしくお願い致します。

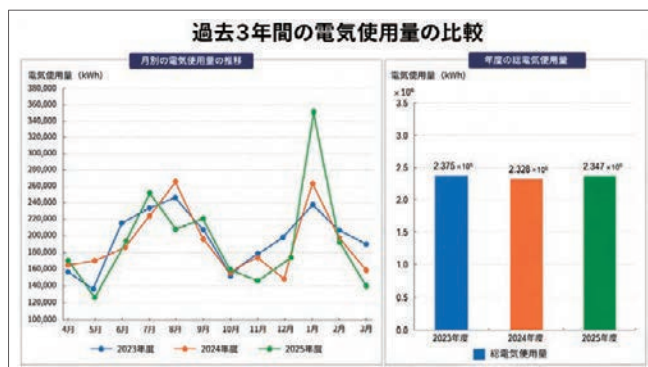
◎ Proper Waste Disposal During Moving Season

February and March are moving seasons for students graduating or entering the university. During this time, household waste and large garbage are often brought onto campus or disposed of incorrectly. We have summarized the waste disposal rules of Matsue City and Shimane University. Please follow the correct procedures and help reduce waste at Shimane University.

Matsue City Large Waste (requires a fee) (松江市の大型ゴミ収集(有料))



EMSニュース2026.2月号



生物資源科学部電気使用量2025

5 島根大学におけるSDGsへの組織的取組

島根大学は2024年度、学長のガバナンスのもと、「SDGs推進会議」を立ち上げました。これにより、これまで「島根大学SDGs行動指針」のもと、各理事や担当課の所掌により進めてきたSDGsに関する個別の取組を、より一層推進させるための体制を整えました。

SDGs推進会議では、SDGsに関する具体的な取組の企画・立案を行い、取組方針を示すとともに、それを全学で共有することで、本学におけるSDGsに関する意識醸成、及び教育・研究・社会貢献における取組の更なる推進を図ります。



役割

- 全学的なSDGsに関する取組の企画・立案に関すること
- SDGsの取組に関する広報活動の発信に関すること
- 学外におけるSDGs教育に関すること

など

◆ 2025年度の取組のハイライト

1. SDGsユニット認定制度の開始

島根大学SDGsユニット認定制度とは、地域または国際社会との、より一体的なパートナーシップ構築を目指し、SDGs達成に資する活動を行う学生や教職員に対し、島根大学が「SDGsユニット」として活動を公認する制度です。

2025年度は、学生主体ユニットとして14団体が認定され、特に活動内容を評価された団体へは支援金を支給しました。ユニットの活動は多岐にわたります。フードバンクのボランティアを通じたひとり親世帯の支援活動や、地域と一体となって子ども食堂の運営に携わる活動、地域おこしの一環として「鉄道」を通して過疎地域の活性化につなげる活動、循環型農業の1つである焼畑農法により島根の里山を守る活動など、様々な分野での活動がありました。また陸上競技部や吹奏楽部も、グラウンドの整備や練習前後のゴミ拾い活動、子どもを対象としたスポーツ教室、音楽の良さを共有し身近に感じてもらう訪問演奏会を通じた音楽の魅力の発信など、地域に根差した活動を継続して行ってきました。そして、これらの取組がSDGsに資する活動であることを、本制度をきっかけに見つめ直す機会にもなりました。



島根大学SDGs
ユニットページ

島根大学SDGsユニットの紹介

ユニット名のクリックでユニットの詳細がPDFで表示されます。

学生主体ユニット

- 島根大学陸上競技部 S.C.A.R.E(スクア)
- 雲山院かんかね?
- 総合環境サークルエコロジーネットワーク
- 島根大学 薬道研究部
- 学生FBI
- 島根大学学生EMS委員会
- 島大すみれ食卓
- 島根大学経済学部
- C3+Lab~ cement×CO2×crab~
- 島根大学学生法務同組合法律事務所
- 島根大学学生法務同組合法律事務所
- 島根大学吹奏楽部
- チームアスザン
- 山陰の自然を愛し、環境保護を呼びかけるユニット「地字版」

2. SDGsユニットの活動発表

2026年1月20日（火）、SDGs概論の講義内において、令和7年度SDGsユニット活動発表会を開催しました。当日は松江市副市長、まつえ環境市民会議代表をはじめ行政の関係者をお招きし、SDGs概論の受講生をはじめとした約300名の学生を前に7つのSDGsユニットがそれぞれの活動について発表を行いました。

ご臨席いただいた方々からは、「SDGsは難しそうに感じがちだが、実は非常に身近なものであると改めて感じた。日常生活や普段の活動の中で少し意識するだけで、よりよい社会につながるものである。ぜひ身近なものとして意識し共有してほしい」との講評をいただきました。

一人ひとりが少し意識し行動することが、持続可能な社会の実現につながることを、学生たちの活動発表を通じて改めて認識する良い機会となりました。



3. 中期目標・中期計画

第4期中期目標・中期計画において、SDGsの教育、研究面の計画を立て取り組んでいます。

2025年度、教育面ではSDGsの複数ゴールが明記されているシラバスが79.5%となり、第4期の目標としている70%を超える実績を達成しました。また、地域と連携したSDGs課題の解決に向けた取組は、2025年度時点で43件となり、目標とする15件を上回りました。

研究面では、第4期の当初から2025年度までに、SDGs実現を推進するための研究テーマは82件（目標：15件）を選定して取り組んできました。またこれらのテーマに基づく発表論文は547件（目標：100件）に達し、いずれも目標を大きく上回りました。

4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置

(3)-1

SDGsの観点からカリキュラムを見直し、授業科目とSDGsとの関連付けを明確化しシラバスに記載するなど、授業内容のSDGsへの関連について学生の理解を深めてSDGsに対する意識を向上させるとともに、学内での全学的な活動に加えて、地域（自治体、各種機関、企業等）と連携したSDGsの達成へ向けた取組を行う。

(3)-2

戦略的なプロジェクトを推進するため、経費配分において、SDGsの観点からの評価を加え、カーボンニュートラルを含むSDGs実現や持続可能な社会への構築を目指した研究を全学的に推進する。

評価指標(3)-1

- ①第4期中期目標期間中に全ての学部、研究科においてSDGsの観点から三つの方針の見直しを実施され、全学共通教育においてはSDGsの基礎を学ぶ授業科目を設定するとともに、専門教育においては各分野に特化したSDGs関連科目が設定されている。
- ②令和9年度において全授業の70%でSDGsの複数のゴールが反映されていることがシラバスにより確認される。
- ③第4期中期目標期間中の地域と連携したSDGs課題の解決へ向けた新規の取組件数 15 件

評価指標(3)-2

- ①第4期中期目標期間中のSDGs実現を推進するために全学として選定する研究テーマ 延べ 15 件
- ②第4期中期目標期間中の上記①のテーマによる発表論文 延べ 100 編

4. SDGsに関する取組のホームページ掲載

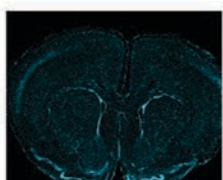
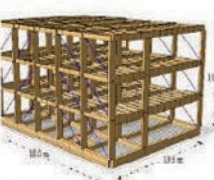
各教員のSDGsに関する取組を、本学ホームページにおいて紹介しています。



島根大学HP



取り組み事例

 理科の楽しさを次世代へ～未来の先生とともに届ける科学教室～(教育学部) 	 持続可能な未来のための原子レベルの洞察: 高効率電気エネルギー貯蔵用ガラス材料の開発(先端マテリアル研究開発協創機構) 	 希土類(レアアース)鉱物資源に関する研究(総合理工学部) 	 島大アンバサダーによる島大グローバル月間イベント「2030SDGs」カードゲーム(グローバル化推進本部) 
 脳や脊髄の発生や疾患のメカニズム解明を目指す研究協力(医学部) 	 AI技術を用いたエスチアリーにおける水環境問題の評価方法の構築(研究・学術情報本部) 	 中層木造建築物の耐震性能に関する研究(総合理工学部) 	 骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折治療を最終ターゲットとする人工骨ネジの開発(医学部) 

5. 評価

・ASSC評価

本学全体としてSDGsに関する取組を推進していくにあたり、現状の課題及び強み等を客観的に把握し、今後の取組に活かすため、令和7年度に北海道大学サステナブルキャンパスマネジメント本部が2013年に開発したアンケート形式の評価システム「ASSC」に参加しました。「ASSC」は、運営、環境、教育・研究、地域社会の4部門で構成され、各部門の下に合計170項目の評価基準が配置された自己評価による採点システムです。島根大学は評価の結果、「ゴールド認証」となりました。今後、この評価結果や他大学の取組状況等を参考にしながら、本学におけるSDGsの取組をさらに推進していきます。



6 グリーン購入の促進

島根大学では、循環型社会の形成のため、再生品の活用などの供給面の取組に加え、需要面からの取組が重要であるという観点から、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」を遵守し、環境負荷の少ない製品・サービス等の調達を推進するとともに、その実績を関係省庁に報告し、島根大学のホームページにおいても公表しています。

(1) グリーン購入の方針

島根大学環境方針（P.6参照）に基づき「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、物品・役務の調達に当たっては、環境負荷の少ない製品・サービス（グリーン購入法に定める特定調達品目）等の調達に努めています。

(2) グリーン購入・調達の状況

特定調達品目計22分野のうち、設備・公共工事の計2分野を除き、2025年度の島根大学における特定調達品目の調達実績を調査しました。このうち、特定調達品目を調達した20分野・156品目の実績は次表のとおりです。

2025年度における特定調達品目の調達実績

No.	分 野	主な品目	総調達量	特定調達物品等の 調達量	特定調達物品等の 調達率 (%)
1	紙類	コピー用紙、トイレットペーパー等	48,454 kg	48,454 kg	100
2	文具類	事務用品、OA用品等	126,549 個	126,549 個	100
3	オフィス家具等	椅子、机、什器等	1,213 台	1,213 台	100
4	画像機器等	コピー機、プリンタ、プロジェクタ等	3,725 台	3,725 台	100
5	電子計算機等	電子計算機、記録用メディア等	2,714 台	2,714 台	100
6	オフィス機器等	シュレッダー、一次電池等	3,818 台	3,818 台	100
7	移動電話等	携帯電話、PHS等	0 台	0 台	100
8	家電製品	冷凍冷蔵庫、電子レンジ等	1,206 台	1,206 台	100
9	エアコンディショナー等	エアコンディショナー、ストーブ等	44 台	44 台	100
10	温水器等	ヒートポンプ式電気給湯器、ガス温水機器等	1 台	1 台	100
11	照明	LED照明器具、電球形LEDランプ等	33 個	33 個	100
12	自動車等	乗用車、公用車用タイヤ	11 個	11 個	100
13	消火器	消火器	82 本	82 本	100
14	制服・作業服等	作業服、靴等	1,134 着	1,134 着	100
15	インテリア・寝装寝具	カーテン、カーペット等	56 枚	56 枚	100
16	作業手袋	作業手袋	380 組	380 組	100
17	その他繊維製品	ブルーシート、モップ等	25 点	25 点	100
18	災害備蓄用品	飲料水、レトルト食品等	1,602 個	1,602 個	100
19	役務	印刷、清掃、輸配送等	2,248 件	2,248 件	100
20	ごみ袋等	プラスチック製ごみ袋	32,338 枚	32,338 枚	100

注1. 各調達数量は、分野ごとの品目全てを集計しています。OA機器の調達量は、リース・レンタルによる数量を含みます。

注2. 紙類のうち、コピー用紙については、契約上の仕様と実際の高紙配合率とに乖離があるものを含みます。

①目標達成状況

島根大学の調達方針において、特定調達品目の調達について目標設定を行った品目は、全て100%目標を達成しています。

②その他の物品、役務の調達に当たっての環境配慮の実績

環境負荷の少ない製品・サービス等の調達に当たっては、できる限り環境に負荷の少ない物品などの調達に努めることとし、環境物品などの判断基準を超える高い基準のものを調達すること、またグリーン購入法適合品が存在しない場合についても、エコマークなどが表示され、環境保全に配慮されている物品を調達するよう努めました。

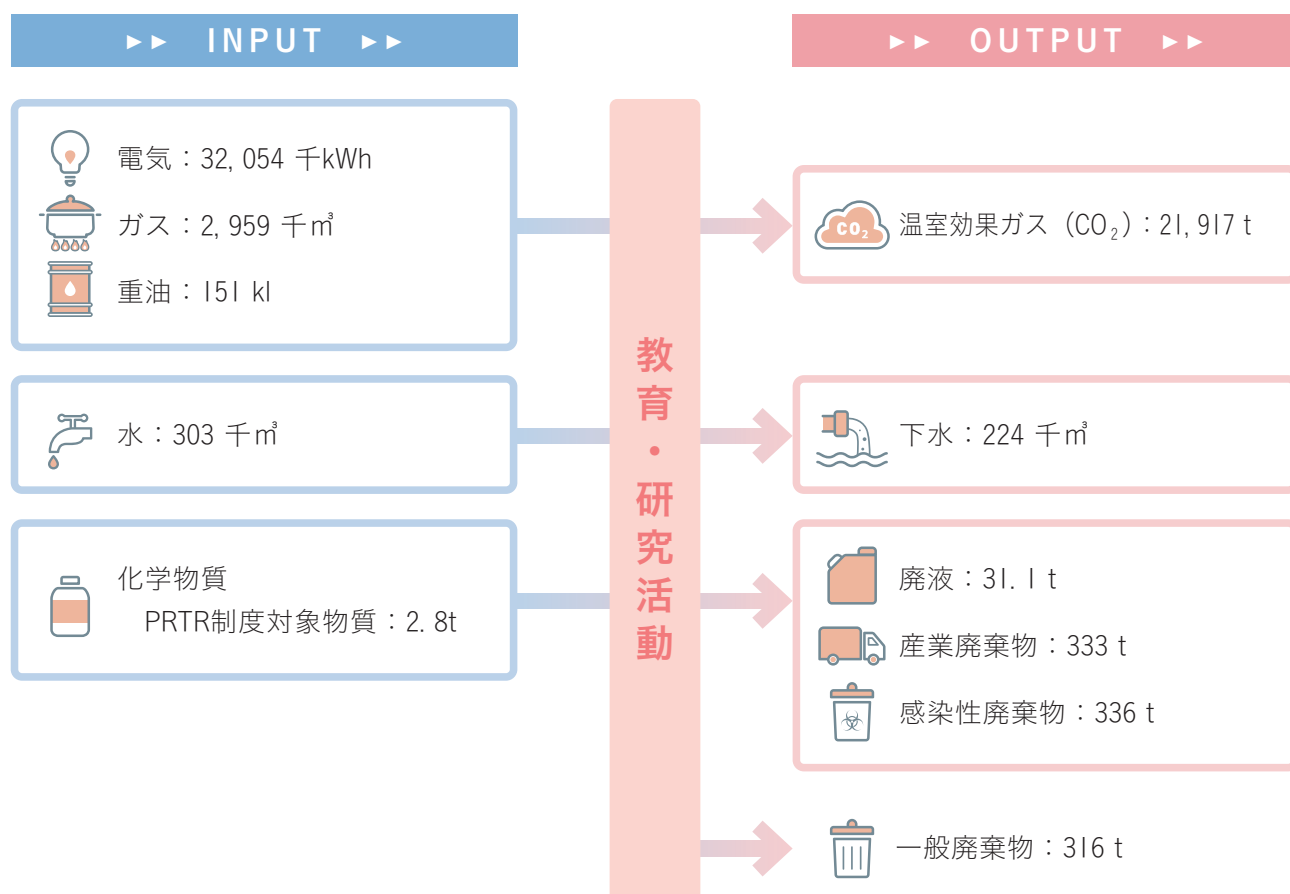
また、物品などを納品する事業者などに対しても、事業者自身がグリーン購入法を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入などに際しては、可能な限り低公害車の利用に努めるよう働きかけています。

今後の物品などの調達においても、引き続き環境物品などの調達の推進を図り、教育研究上の必要性などを考慮しつつ、可能な限り環境負荷の少ない製品・サービス等の調達率100%を目指して取り組みます。

7 教育・研究活動に関するインプット・アウトプット

(1) 2025年度のインプット・アウトプット

2025年4月から2026年3月までのエネルギー消費等は以下のとおりです。



(2) エネルギー消費等の経年データ

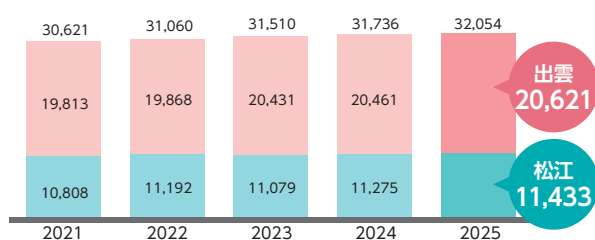
本学で2025年度に消費された主なエネルギーデータを示します。

2025年度は、松江キャンパスにおいて2024年度末に設置された新棟が稼働しました。新棟の稼働に伴い、2025年度の松江キャンパスにおける電力使用量は増加しましたが、ガス使用量及び重油使用量の減少に加え、二酸化炭素排出量も減少しました。

出雲キャンパスにおいても、2025年度の電力使用量及び重油使用量は増加しましたが、ガス使用量及び二酸化炭素排出量が減少しました。

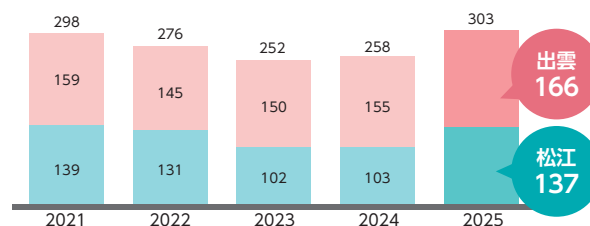
▶▶ INPUT ▶▶

💡 電力使用量(千Kwh)



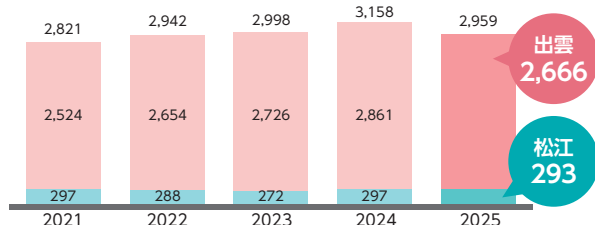
2025年度は、前年度と比較して、1.0%増加しました。
主な要因としては、2024年度末に松江キャンパスにおける設置した新棟が稼働したことが挙げられます。

💧 上水等使用量 (千m³)



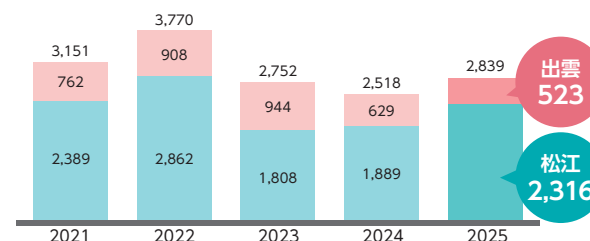
2025年度は、前年度と比べ17%増加しました。主な要因としては、2024年度末に松江キャンパスにおける設置した新棟が稼働したことが挙げられます。

🍲 ガス使用量 (千m³)



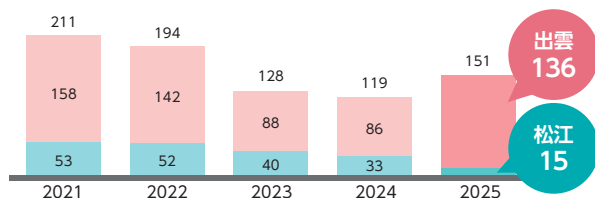
ガスは主に全体空調の運転で消費されます。2025年度は前年度と比較して、6.3%減少しました。
主な要因としては、出雲キャンパスにおける設備更新により、エネルギー消費が効率化されたことが挙げられます。

🧴 化学物質投入量 (kg)



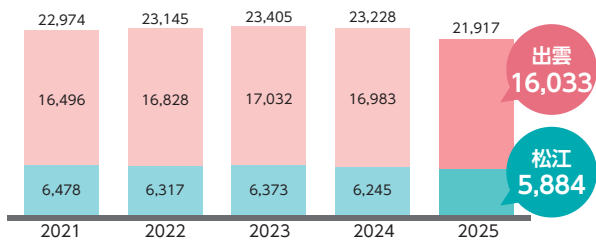
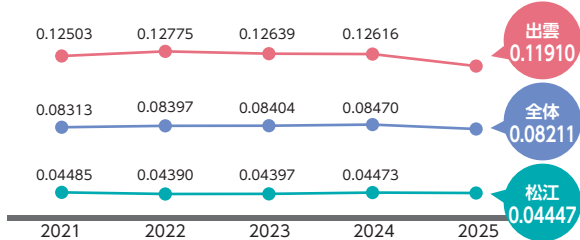
2025年度は、前年度と比べ12%増加しました。主な要因としては、2024年度末に松江キャンパスにおける設置した新棟が稼働したことが挙げられます。

🔥 重油使用量 (kl)

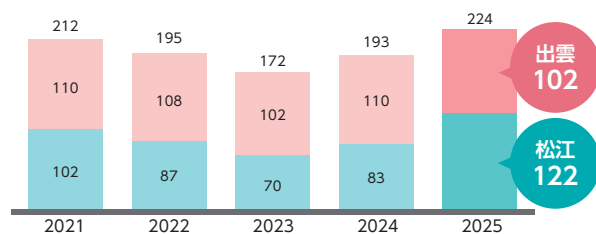


2025年度は、出雲地区において受電用電気設備の更新があり、重油を用いて一定期間発電を行っていたため、前年までと比較してスポット的に増加しました。

▶▶ OUTPUT ▶▶

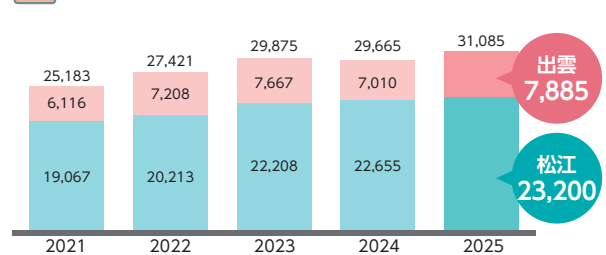
CO₂ 二酸化炭素排出量 (t)建物延面積当たりのCO₂排出量 (t-CO₂/m²)

2025年度は、前年度と比較して、5.6%減少しました。主な要因としては、電力供給事業者による二酸化炭素排出量の係数が小さくなったことが挙げられます。

下水道使用量 (千m³)

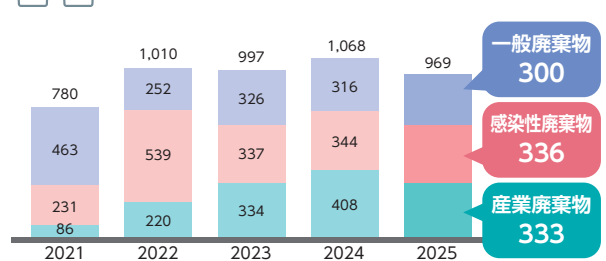
2025年度は、前年度と比べ16%増加しました。主な要因としては、は2024年度末に松江キャンパスにおける設置した新棟が稼働したことが挙げられます。

廃液排出量 (kg)



2025年度は、前年度と比べ4.8%増加しました。主な要因としては、は2024年度末に松江キャンパスにおける設置した新棟が稼働したことが挙げられます。

廃棄物等総排出量 (t)



2025年度は、前年度と比べ、9.2%減少しました。産業廃棄物、感染性廃棄物及び一般廃棄物のいずれも減少しました。

1 本報告書の対象範囲

- 対象期間 …… 2025年4月から2026年3月まで（対象期間外の事項については当該箇所に明記）
- 適用範囲 …… 国立大学法人島根大学 松江キャンパス及び出雲キャンパス

2 大学概要（2025年5月1日現在）

- | | | |
|------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ● 創立年 …… 1949年 | ● 学生数(学部・大学院) …… 6,194人 | ● 病床数 …… 600床 |
| ● 敷地面積 …… 6,478,791 m ² | ● 附属学校生徒数 …… 766人 | ● 外来患者数 …… 319,326人(※2) |
| ● 延床面積 …… 293,259 m ² | ● 教職員数 …… 2,488人 | ● 入院患者数 …… 190,465人(※2) |

※2：2025年度累積を示す



川津団地（松江キャンパス）

- 松江市西川津町1060
- 敷地面積 201,195 m²
- 延床面積 132,317 m²

	学生数 (留学生含む)	教職員
法文学部	786	50
教育学部	572	55
人間科学部	338	22
総合理工学部	1,646	101
材料エネルギー学部	251	25
生物資源科学部	878	77
人間社会科学研究科	68	-
教育学研究科	27	9
自然科学研究科	502	-



材料エネルギー学部棟



産学協創インキュベーションセンター

大輪団地（松江地区）

- 松江市大輪町416-4・菅田町167-1
- 敷地面積 54,688 m²
- 延床面積 15,267 m²

	生徒数	教職員
附属幼稚園	52	7
附属義務教育学校前期課程	357	45
附属義務教育学校後期課程	357	



附属義務教育学校 後期課程校舎

塩冶団地（出雲キャンパス）

- 出雲市塩冶町89-1
- 敷地面積 217,975 m²
- 延床面積 134,615 m²

	学生数	教職員
医学部	928	323
医学系研究科	198	
附属病院	-	1,435



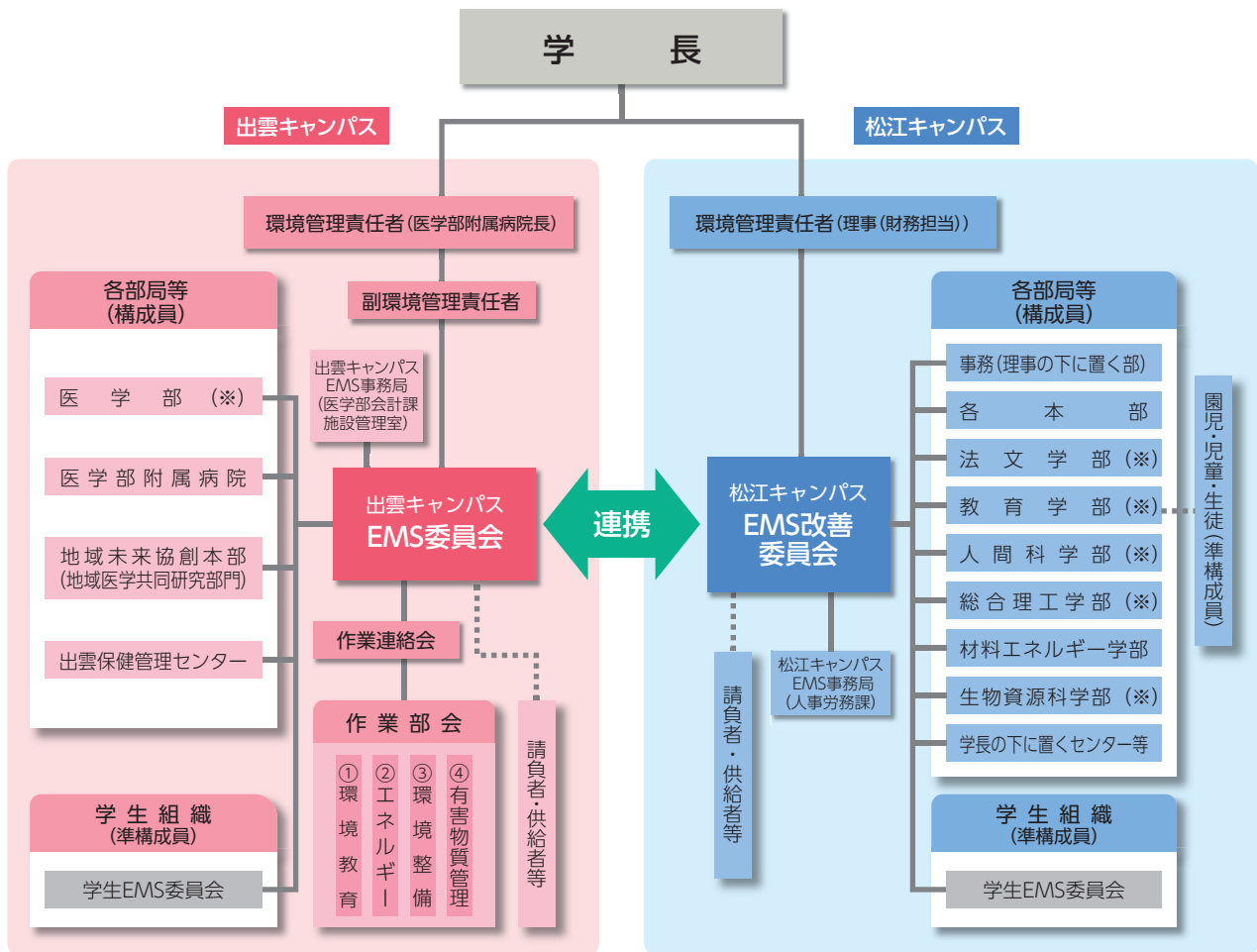
医学部附属病院 外来・中央診療棟

その他団地

職員宿舍、学生寮、三瓶演習林、匹見演習林、隠岐臨海実験所、その他

3 島根大学環境マネジメントシステム（EMS）体制図

(2025年4月1日時点)



※大学院を含む

大学憲章に基づき、自然と共生する豊かな社会の発展に努めるために、環境方針を定め、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進しています。

Ⅰ 島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。

2 島根大学環境方針

島根大学憲章に基づき、全ての教職員および学生等の協働と、最適なワークライフバランスのもと自然と共生する持続可能な社会の発展をめざして、以下の活動を積極的に推進します。

1. 環境改善に資する豊かな人間性、能力を身につけ、世界全体を視野に入れた環境改善を学び行動する人材を育成します。
2. 研究成果による環境改善、その普及により、大学内の環境のみならず、市民とも協働して地域環境および地球環境の改善に努めます。
3. 環境と人が調和するキャンパスマスタープラン作成により、知と文化の拠点にふさわしい教育・研究およびキャンパスライフに快適な学内環境を構築します。
4. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進、グリーン購入および化学物質等の適正管理により、汚染の予防と継続的な環境改善を行って、環境関連の法令順守を徹底し、環境に配慮した教育、研究、医療に努めます。

2015年4月1日（第5版） 島根大学長

https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policies_and_initiatives/sdgs_env/ems_policy/

3 島根大学SDGs行動指針

島根大学は、大学憲章において“自然と共生する豊かな社会の発展に努める”ことを謳っています。わたしたちは、不断の教育・研究・医療等の活動はもとより、地方創生の推進、平和な国際社会の発展とインクルーシブな社会の実現に寄与する人づくりを通じて、SDGsの達成に向けて活動することにより、持続可能な社会の構築に貢献します。

特に、島根大学の地理的特性を生かし、自然環境の保全・継承のため、地域と強く連携し、あわせて学生のSDGs意識を高める教育に努めます。

2019年11月14日 島根大学長

4 環境マネジメントシステム（EMS）によるこれまでの主な取組

1999年	・学長が開学50周年を契機に「キャンパス環境キャンペーン」を提言 ① 環境保全型大学運営を推進するための調査検討、② ISO14001取得事前検討、③ 環境研究の推進、④ 環境教育の推進
2001年	・松江キャンパスにおいて、環境委員会およびキャンパス・アメニティー専門委員会を設置
2004年	・2007年度末までに環境マネジメントシステム（EMS）を構築する旨を明示した中期目標・計画の認可 ・役員会において、環境マネジメントシステム（EMS）構築にはISO14001の認証取得を基本方向として検討を進める旨を決定 ・環境委員会においてISO14001の認証取得を目指す旨を承認
2005年	・学長による「環境方針」公表 ・松江キャンパス及び出雲キャンパスにおいてEMS実施委員会の設置
2006年	・松江キャンパスにおいて、ISO14001認証取得、「松江市環境保全功労表彰」の受賞
2007年	・松江キャンパスにおいて、ISO14001定期審査合格および範囲拡大審査認証取得
2008年	・出雲キャンパスにおいて、範囲拡大審査認証取得（附属病院を含む総合大学としては全国初の認証取得） ・「第11回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 優秀賞（環境省及び財地球・人間環境フォーラム主催）」受賞
2011年	・「第14回 環境報告書賞 公共部門賞（東洋経済新報社及びグリーンポータリングフォーラム共催）」受賞
2012年	・島根大学『省エネルギー宣言』公表
2013年	・松江キャンパスEMS改善委員会の設置
2015年	・「環境方針」の改定
2018年	・出雲キャンパスにおいてISO14001 2015規格への登録改訂
2019年	・島根大学SDGs行動指針の表明
2023年	・出雲キャンパスにおいて、ISO14001認証の継続を終了
2024年	・SDGs推進会議の設置 ・大学が公認する島根大学SDGsユニット制度の整備

5 環境マネジメントシステム（EMS）の見直し

島根大学では、「教職員による内部監査」及び「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）見直し」の取組により、環境マネジメントシステム（EMS）の見直しを行っています。

「教職員による内部監査」では、出雲キャンパスにおいて、環境マネジメントシステム（EMS）活動が計画に沿って実施されているかなどのチェックを年1回実施しています。

2025年はISO14001認証を参考とした内部監査方法に基づき、キャンパス内の規程や運用について事務局から説明を行う形式での研修を受講した教職員が内部監査員として3チームの編成で対象部局を監査しました。

2025年度の内部監査では、不適合が発見されませんでしたが、不適合が発見された場合は直ちに改善を行い、2026年度の内部監査でフォローアップすることとなります。内部監査結果については、監査で確認された有効事例の展開と観察事項を基に広報であるEMSニュースに掲載し、各部署への水平展開を図るように記事を作成し、内部監査をより効果的に運用しています。

「経営陣による環境マネジメントシステム（EMS）の見直し」では、キャンパスごとに最高経営者である学長による学長マネジメントレビューを実施しています。

学長に対し、年間の活動報告、法令遵守等必要な情報を提供し、その後、今後の継続的改善に向けた提言も行われました。

学長による見直し結果は、以下のとおりです。今後、この結果に基づき、より良い継続的改善につなげていきます。



学長マネジメントレビューの様子

出雲キャンパス

見直しを図るために提供した情報	学長からの主な提言
・ 前回のマネジメントレビューのフォローアップ結果 ・ 環境マネジメントシステムに関連する内外の課題 ・ 各作業部会の課題 ・ 環境目標の達成度 ・ 監視及び測定の結果 ・ 順守義務の達成度 ・ 内部監査の結果 ・ 資源の妥当性 ・ 環境マネジメントに関するコミュニケーション（苦情を含む） ・ 新たなEMS活動 ・ その他	1. 環境マネジメントシステムが引き続き適切、妥当かつ有効であることに関する結論 ・ 出雲地区の環境マネジメントシステムは一部目標が未達成な部分が生じているが、概ね適切・妥当でかつ有効な活動であることが確認できた。 2. 継続的機会に関する決定 ・ EMSは引き続き維持することで全学的な目標である持続可能な開発目標（SDGs）、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）に可能な限り協力いただきたい。 3. 資源を含む環境マネジメントシステムの変更に関する決定 ・ 今回未達成であったエネルギー部分は外的な要因もあるが、EMS活動の本質的な部分を踏まえ、次年度以降も取り組んでもらいたい。 4. 環境目標が達成されていない場合の処置 ・ EMS活動は概ね順調に実施している。 5. 他の事業プロセスへの環境マネジメントシステム統合を改善するための機会 ・ 島根大学全体で持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた活動を公認する制度を設けたので、学生EMS委員の活動は活動のPRや外部との連携等、活動を広げるのに繋がることから、応募を検討してみてもどうか。 6. 組織の戦略的な方向性に関する示唆 ・ 内部監査の有効事例（例：廃液の分類や廃棄物の分別等を自部署向けにわかりやすく表記している）等は組織全般のリスク回避につながるので水平展開を行っていただきたい。

島根大学環境シンボルマーク

島根大学では教育・研究・医療・社会貢献活動を通じて環境問題に取り組んでいます。

このマークに描かれている葉っぱは環境への配慮を、ペンはあらゆる教育を通じて学習し、さまざまな環境問題に取り組んでいく姿勢を表しています。まさに島根大学の姿勢を表すシンボルマークと言えるでしょう。

島根大学ではこのシンボルマークを環境方針カードに記し、構成員、準構成員(学生)一人ひとりが環境を改善するために何ができるかをカードの裏面に書きとめています。



報告書適用範囲 : 国立大学法人島根大学松江キャンパスおよび出雲キャンパス
報告書対象期間 : 2025年4月～2026年3月
(対象期間外の事項については当該箇所に明記)
公表方法 : 島根大学ホームページにて公表
HPアドレス : https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/ems/ems_report/
発行年月 : 2026年9月(前回発行年月日:2025年9月)

◆島根大学の環境問題、環境・SDGs 報告書に関するご意見、ご感想をお聞かせください。

島根大学総務部人事労務課

TEL : 0852 (32) 9829

FAX : 0852 (32) 6833

E-Mail : fpd-mkanmane@office.shimane-u.ac.jp